

## 私たちの「食」をめぐる世界と日本の多くの問題

世界の**栄養不足人口**は 9億2500万人 [FAO, 2010]

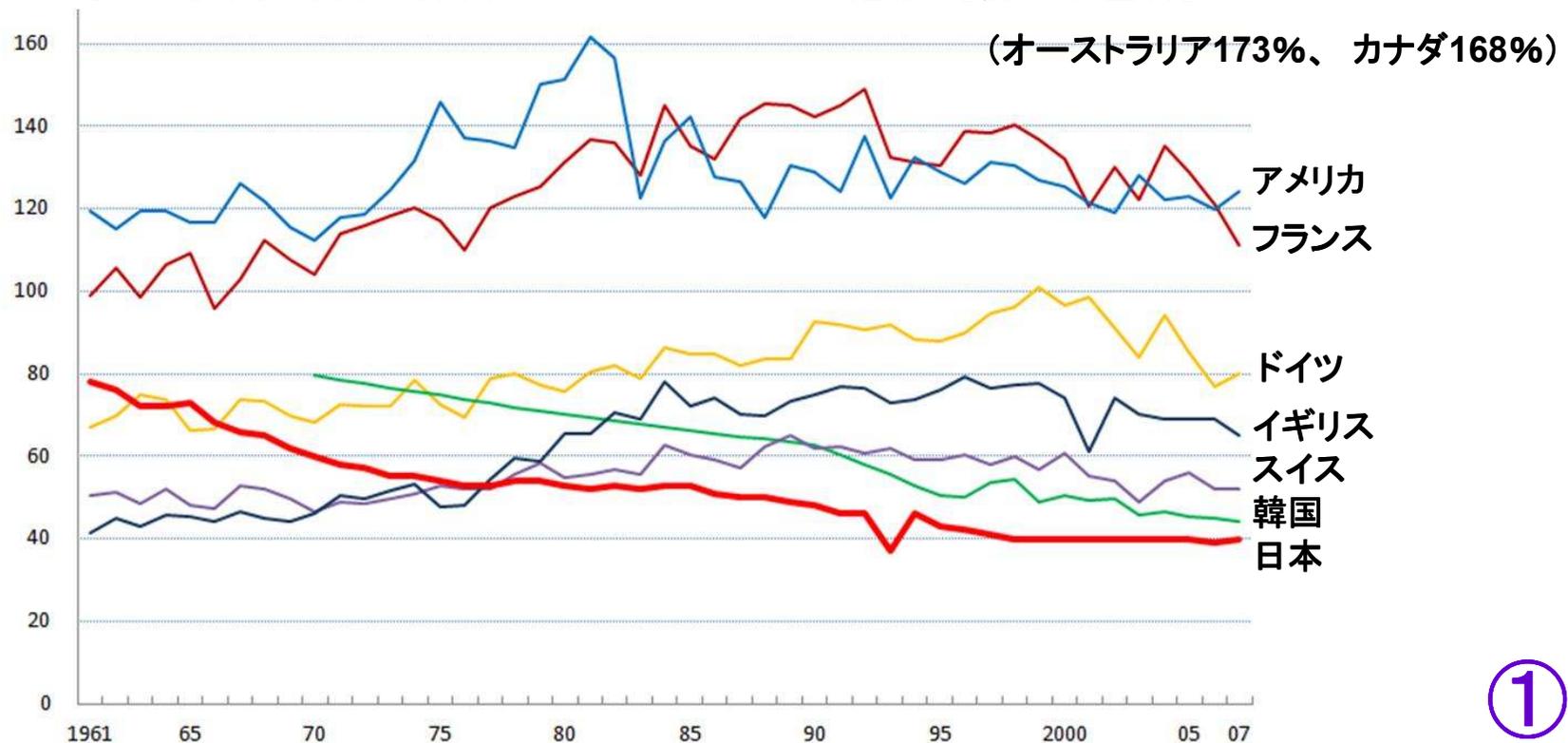
食料の国際価格の上昇:**世界の食料需給はひっ迫基調** (人口増加・所得向上、気候変動)

日本の**食料自給率**(カロリーベース):**40%** [農林水産省、2009]

食料の約3割(約2千万トン)を**廃棄・食べ残し**。

**農業所得の半減**(6.1兆円(90年)→3.3(07))、**耕作放棄地の急増**(22万ha(90)→39(05))

○ **主要国の食料自給率(カロリーベース)の推移** [農林水産省]



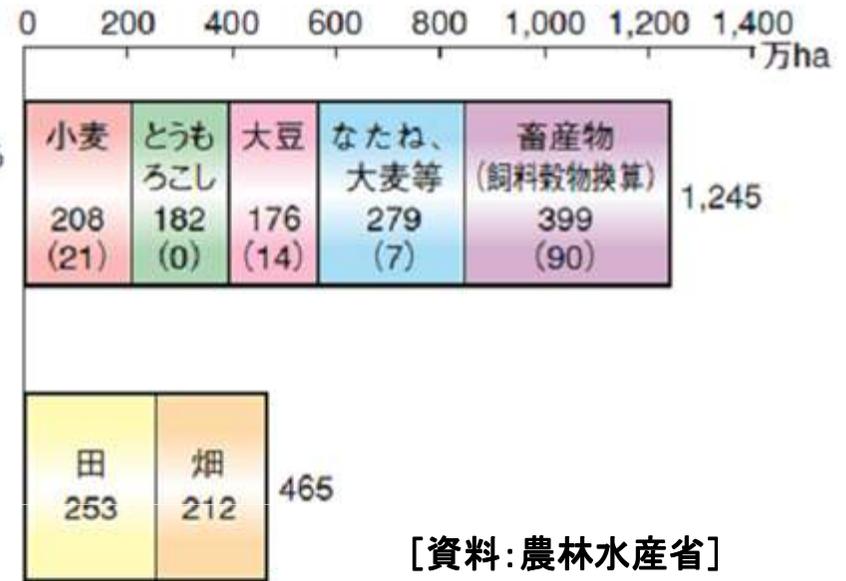
# 地球とつながる私たちの食

私たちの食生活が地球規模の環境や資源に与えている負荷

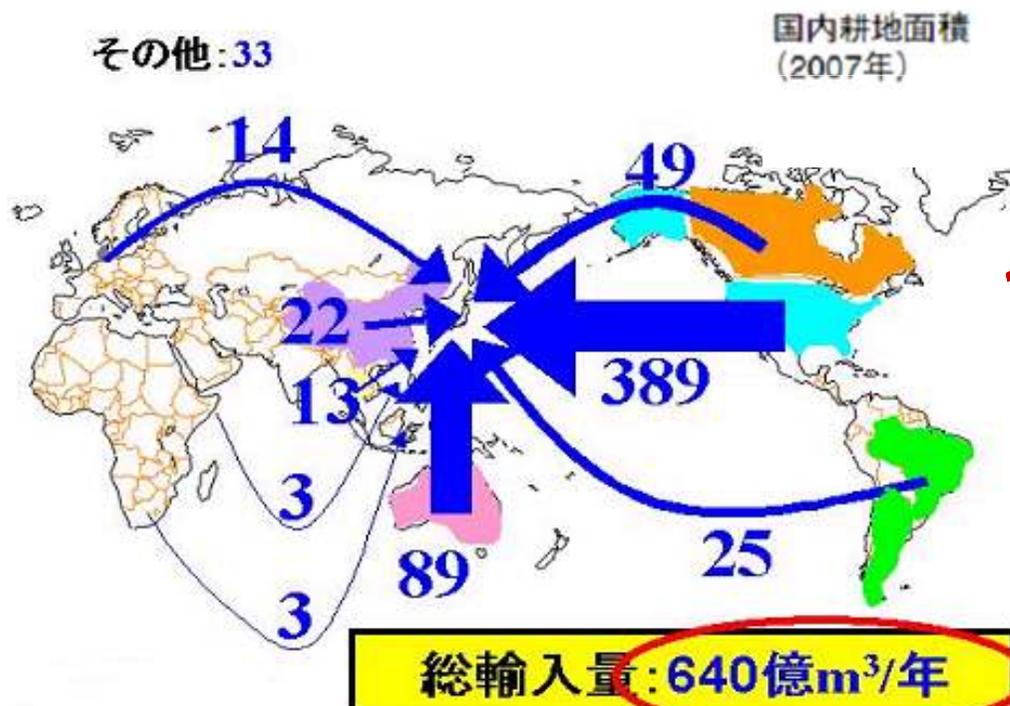
## 土地

国内農地面積の  
2.7倍の海外農地に依存

海外に依存している  
作付面積 (試算)  
(2003~05年平均)



[資料:農林水産省]



[資料:東京大・沖大幹先生のグループ]

## 水

国内の灌漑用水量以上の  
「仮想水」(バーチャル・ウォーター)を輸入

## 地球温暖化

大量の輸入食料の長距離輸送に伴う  
大量の二酸化炭素の排出

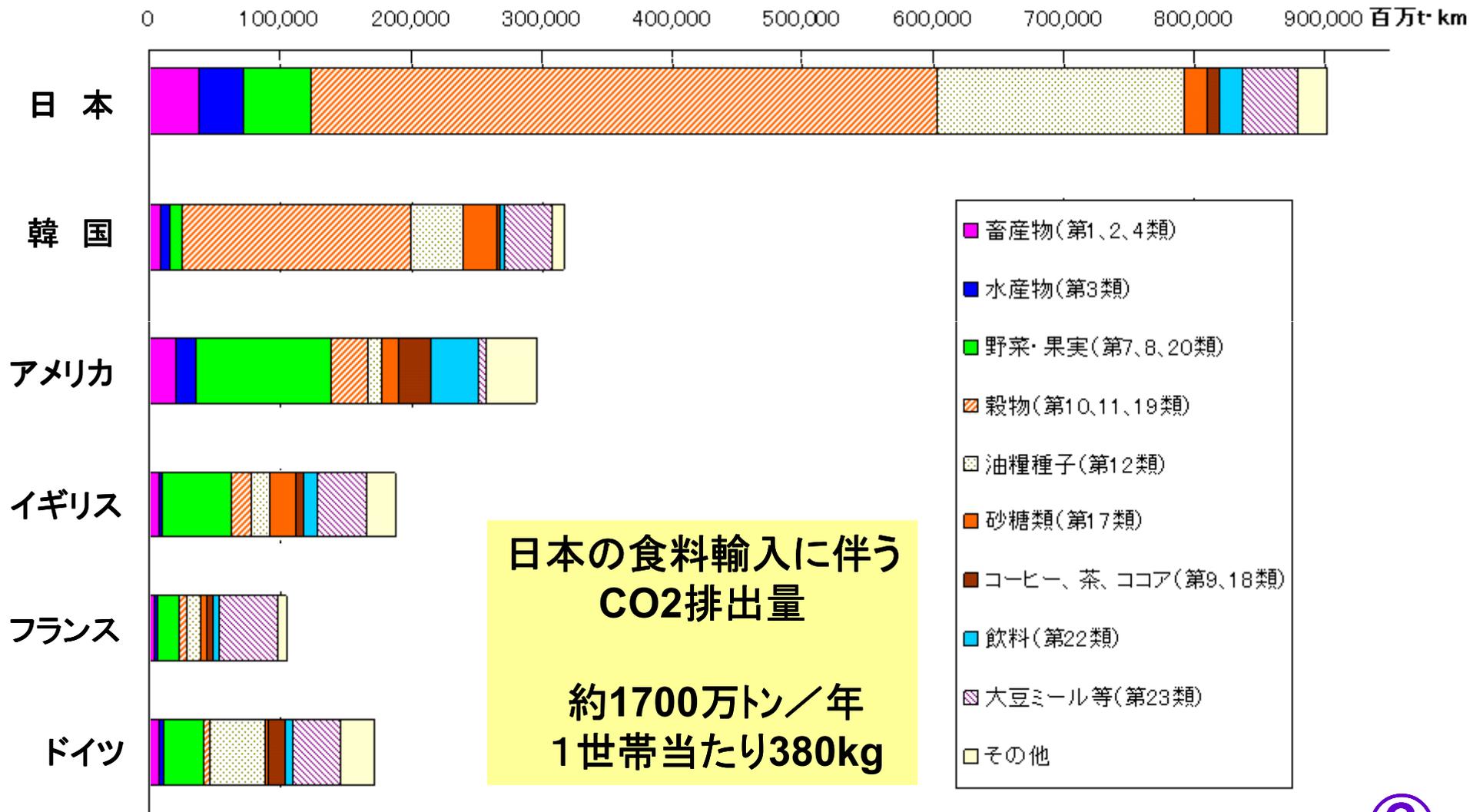
→ 突出したフード・マイレージ

②

**フード・マイレージ = 食料の輸送量 × 輸送距離**

身近な日々の食生活が地球環境問題と関わっていることに気付くヒント

## 輸入食料のフード・マイレージの比較(2001年)



出典: 中田哲也「フード・マイレージ—あなたの食が地球を変える」(2007、日本評論社)

伝統野菜の復活・普及：地域の歴史や風土、食文化と結びついた地産地消の典型。  
 (身土不二、スローフード運動、LOHAS)、さらに輸送によるCO2削減も。

## ナスのフード・マイレージ等の比較

参考：大竹道茂さんブログ  
 「江戸・東京野菜通信」  
 注：ナス300gについて計算。



生産者・渡戸秀行氏

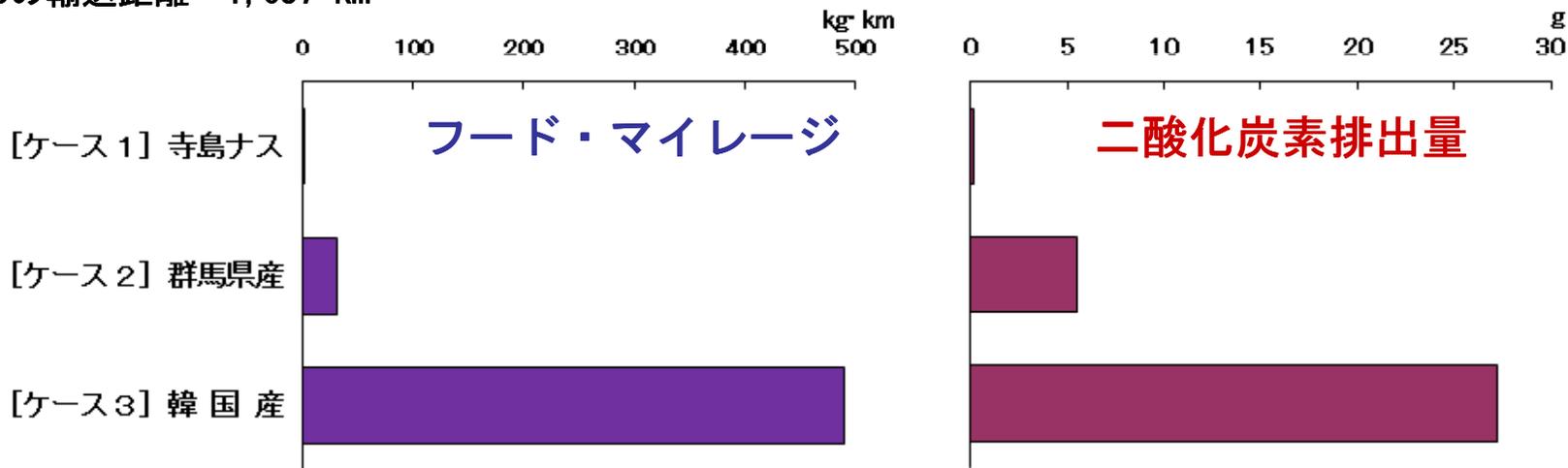


ケース3の輸送距離 1,637 km

- ケース1 練馬区産の場合  
(実際に使用したもの。)
- ケース2 群馬県産の場合  
(仮定)
- ケース3 韓国産の場合  
(仮定)



ケース1の輸送距離 3.6 km



地元産のナスを食べることで、二酸化炭素排出量を 27g削減

cf. (1世帯1日当たり) 冷房の温度を1℃高く: ▲90g、テレビを1時間短く: ▲38g

フード・マイレージの限界・問題点  
 輸送手段による大きな差、輸送面のみ (cf. カーボンフットプリント)